

3. 「旧町」たんけん

わたしたちの名張市の中心であった名張地いきは、今では親しみをこめて「旧町」とよばれ、古くからのこるたてものや、みんながり用する、いろいろなしせつなどがあります。また、近くには、てつ道や大きな道ろも通っています。

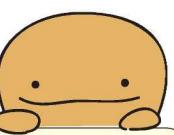


名張川と電車



秋まつり

「旧町」に行くと
で出あえるよ



近鉄名張駅の西口

近鉄名張駅の東口



宇流富志禰神社のさん道



やなせ水ろ(城下川)

1. 名張川

名張川は、夏にはたくさんの「あゆつり」の人たちでにぎわいます。また、7月には新町の川原で花火大会が行われ、夜空にきれいな花をさかせながら、あつまたった人たちを楽しませてくれます。

しかし、1959(昭和34)年におきた「いせわんたい風」では、この川の水があふれだし、大きなひがいが出ました。

今では上流に、「青蓮寺ダム」と「比奈知ダム」「室生ダム」の3つのダムがあり、水のりょうをちょうせつしながら、水がいから町をまもってくれています。



あゆつりの風景



はなびたいかい花火大会

2. むかしをつたえるもの

(1) はせかい道

むかし、大和(なら県)から、伊勢神宮へおまいりする人たちが歩いた道で、新町から本町、中町などの町の中を通りています。今も石にきざまれた道しるべがのこっています。

(2) 名張藤堂家邸

え戸時だいのはじめに名張へやってきた、藤堂高吉という人は、今の名張小学校のところ(丸之内)に大きなお屋しきをたてました。その一部が今ものこっています。



名張藤堂家邸

名張の町をおさめた武士がすんでいた、家のようすをつたえる、大せつなたてものです。

高吉は、家来のほかに、ものを作ったり、売ったりする人びとを、いっしょにつれてきてすまわせ、「城下町」として名張の町がさかえるもとをつくりました。



はせかいどうみち初瀬街道の道しるべ

(3) やなせ宿

旧細川邸やなせ宿は、え戸時だいから明じにかけて、なら県にあつたくすりのお店、細川しょう店のし店としてたてられた家です。

むかしから、名張川はあゆがたくさんいた

ところで、あゆをとるための「やな」(木や竹をならべて組んだものを川の中に入れて、あゆをつかまえるしき) がたくさんあったことから、名張という地名も、むかしは「やなせ」とよばれていたそうです。

新町にあるこの家は、その「やなせ」という名前をのこし、むかしのように人びとがあつまって、にぎわう場所になると、「やなせ宿」と名づけられました。

ここでは、「あゆまつり」や「もちつき大会」などの、楽しい行じが行われ、たくさんの人でにぎわいます。



やなせ宿

(4) 宇流富志禰神社



なかでも、秋まつりは町じゅうから、みこしやだんじり、しまいなどがでて、たくさんの人や出店でにぎわいます。

中町に「一の鳥居」があります。ここから上本町をとおる道が、じん社へおまいりする道になっていて、両がわにはたくさんのお店がならんでいます。



一の鳥居



乱歩の記念碑

(5) 江戸川乱歩

ゆう名な『怪人二十面相』などを書いた、江戸川乱歩という人は、新町で生まれました。そこは、広場になっていて、記念碑がたてられています。

また、近鉄名張駅の東口には、乱歩のどうぞうがあります。

3. 町なかで見つけたよ

やねののきどうしがかさなるような、せまい道があるのを見かけます。名張の方言で「ひやわい」といいます。人が行き来するのにべんりで、よくり用されています。

また、町なかを歩いていると、たくさんの水ろに出あります。これは、名張川の水をとりこんだ水ろで、「やなせ水ろ」とよばれています。

町なかをあみの目のようにながれていて、むかしから人びとのくらしに役だってきました。なかでもだいひょうてきな水ろである「城下川」では、5月から6月にかけて、きれいなしうぶの「花いかだ」がうかびます。



ひやわい

城下川の花いかだ

みんながすんでいるところには、どんなものがありますか。みんなで、たんけんしてみましょう。人にたずねたり、しらべたりして、わかったことを、みんなに教えてあげましょう。



名張まちなかのキャラクターのひとつ。名張をあいする心をもった人だけが見ることができるといわれているでんせつの犬。

生年月日…1333年7月8日
しん長体じゅう…ひやわいの細さに合わせてふえたりへったりする
出ぼつ場しょ…名張市内かく地のひやわい

【→P34,42,45,47,50,59】